

大正八年従業員に対する全身病及傳染病患者表

Table with 10 columns (months) and multiple rows (disease types and employee counts). Each month's data is organized into a grid with columns for disease categories and summary statistics like '全従業員' (Total Employees) and '全患者' (Total Patients).

Table with 12 columns: 車掌, 運手, 信人, 職工, 工夫, 雑夫, 給小使, 計. Each column contains numerical data for various categories and a '計' (Total) row at the bottom.

Table with 7 columns (七), 8 columns (八), and 9 columns (九). Each column has a header with '職名' (Job Name) and a list of categories like '麻', '百', '實', '赤', etc. followed by numerical data and a '計' (Total) row.

Table with 10 columns (十) and 11 columns (十一). Each column has a header with '職名' (Job Name) and a list of categories like '麻', '百', '實', '赤', etc. followed by numerical data and a '計' (Total) row.

Table titled '合計' (Total) with columns for '職名' (Job Name) and various categories, followed by numerical data and a '計' (Total) row. This is a summary of the data from the previous tables.

第八表

大正九年従業員に対する全身病及傳染病患者表

職名	一 月																二 月																三 月																職名
	麻	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	麻	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	麻	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百	百		
別名	痧	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	痧	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	痧	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳	咳			
車掌	14															10														11															車掌				
手廻り	24															21														22															手廻り				
行人	2															1														1															行人				
職工	10															10														13															職工				
工員	18															18														18																工員			
補給	1															1														1																補給			
小使	1															1														1																小使			
計	41															53														56																計			
計	101,900	1,700	52.8	30.6	107,700	1,670	23.6	15.2	113,801	1,929	27.5	16.2	113,801	1,929	27.5	16.2	107,700	1,670	23.6	15.2	113,801	1,929	27.5	16.2	113,801	1,929	27.5	16.2	113,801	1,929	27.5	16.2	113,801	1,929	27.5	16.2	計												
計	2,408	6	13.4	33.3	2,410	5	7.1	20.0	2,488	6			2,488	6			2,410	5	7.1	20.0	2,488	6			2,488	6			2,488	6			2,488	6			計												

職名		麻疹	百日咳	副百日咳	赤痢	流行性下痢	流行性耳下腺炎	糖尿病	脂肪過多症	脚氣	瘧疾	その他の全身病	計	全従業員	全患者	全患者の百分率	患者の百分率	その他													
車掌												108	254	107,700	1,670	23.6	15.2	...													
運手												76	191	79,080	1,171	24.2	16.8	...													
信人												4	1	1,410	5	7.1	20.0	...													
職工												49	153	62,100	813	24.6	18.8	...													
工夫												7	37	20,460	162	14.0	22.8	...													
雑夫												4	13	15,240	82	8.5	15.9	...													
給仕												3	3	480	12	25.0	25.0	...													
計												218	653	294,030	3,920	22.2	16.7	...													

職名		麻疹	百日咳	副百日咳	赤痢	流行性下痢	流行性耳下腺炎	糖尿病	脂肪過多症	脚氣	瘧疾	その他の全身病	計	全従業員	全患者	全患者の百分率	患者の百分率	その他													
車掌												184	472	118,947	1,989	39.7	3.7	...													
運手												138	271	86,608	1,500	31.3	18.0	...													
信人												1	1	1,364	14	7.3	7.1	...													
職工												130	313	66,743	1,107	46.9	28.3	...													
工夫												15	32	28,396	235	11.3	13.6	...													
雑夫												9	26	17,825	123	14.6	21.1	...													
給仕												3	3	480	12	25.0	25.0	...													
計												329	1,115	322,022	4,990	34.7	22.3	...													

職名		麻疹	百日咳	副百日咳	赤痢	流行性下痢	流行性耳下腺炎	糖尿病	脂肪過多症	脚氣	瘧疾	その他の全身病	計	全従業員	全患者	全患者の百分率	患者の百分率	その他													
車掌												159	408	137,237	1,677	29.7	24.8	...													
運手												113	274	102,858	1,350	26.6	20.3	...													
信人												1	1	1,371	53			...													
職工												98	241	82,274	1,166	29.2	20.7	...													
工夫												23	51	30,938	325	16.5	15.7	...													
雑夫												26	44	10,230	235	43.1	18.7	...													
給仕												3	6	2,076	110	20.2	5.5	...													
計												346	1,634	399,311	5,352	27.2	20.3	...													

職名	麻疹	百日咳	副百日咳	赤痢	流行性下痢	流行性耳下腺炎	糖尿病	脂肪過多症	脚氣	瘧疾	その他の全身病	計	全従業員	全患者	全患者の百分率	患者の百分率	その他															
車掌												474	1,233	4,858	1,410,341	21,875	34.2	22.2	...													
運手												304	708	3,109	1,050,322	15,282	30.4	20.3	...													
信人												1	1	1,364	9	13.0	8.0	...														
職工												238	524	2,912	855,281	11,886	34.0	24.5	...													
工夫												30	107	523	328,202	2,812	15.9	18.6	...													
雑夫												21	74	340	180,005	1,574	18.9	21.6	...													
給仕												3	6	1,561	65	40.4	9.0	...														
計												61	1,634	6,022	3,996,751	56,407	30.3	21.5	...													

二、神経系統患者と總従業員及總罹病者との關係

大正七年から同九年に至る滿三年間の神経系統患者の發生比率は第一表の如き關係である。

其の一、總従業員との關係

- (一) 總従業員一萬人に對して、神経系統患者は九・三。
- (二) 之を職業別に見るときは、本病者の最も多きは運轉手にして、萬分の二〇・九。次が車掌で一〇・二。それから信號人が第三位で萬分の九・四。職工は八・八。
- (三) 罹病者の最も少きは工夫で萬分の四・五。其の上が雜役夫の五・八である。
- (四) 即、神経系統の疾患は、乗務員に最も多くして、工夫に最も少きことを知る。

其の二、總罹病者との關係

- (一) 總罹病者中、本病者の存在する割合は、百分の五・九である。
- (二) 之を職業別に云へば、最多數の本病者を有するものは、矢張り運轉手で百分の六・五。その次が車掌と信號人とで孰れも五・九の平均値に等しき數を示し、其次位が雜役夫(五・八)である。
- (三) 工夫に於いては、本病者の存在率が最も少くして、百分の五・六。その上が職工の五・七である。
- (四) 即、總罹病者中にも、乗務員が最も危険率高く、工夫が最も安全である。

其の三、以上二項の通覽

- (一) 以上を通觀するに、孰れの場合でも、罹病者の最も多きは運轉手にして、車掌が第二位、信號人が第三位である。但、信號人につきては更に別種の觀察を要するものがあるので、これは次節を見られよ。
- (二) 職工の罹病率は概して乗務員に亞ぎて高いのであるが、右の統計の上では總罹病職工と本罹病職工との割合は、百に對する五・七で、多少低くなつてゐる。これは何を示すかといふに、職工その者は一面に神経系統疾患に罹ること多きと共に、他の疾患に對する罹患率も亦多大なることを語るのである。故にその保健上にはかういふ數字を見れば却つて大に注意せねばならない。
- (三) 之を要するに電氣局の従業員と神経系統疾患との關係は、乗務員、(即、運轉手及び車掌)と信號人と、それから職工に於いて、最も留意を要し、之に反して工夫は最も安全の情態にありと認められる。而て職工に於いては前文の如く本病に對する罹病率の高きと同時に更に他の某々疾患との關係に重大なるものあるべきを示してゐる。

三、神経系統疾患と月次との關係

一、總従業員との關係

本項に對しては、第二表及第三表を参照せられよ。

- (一) 一般に本病者は、三四月の頃より頗る劇増して、十月に至り、爾後又急に減少する。
- (二) 就中、夏の六月が最高率で萬分の二二・二。次は五及四月で夫れ〱一一・一及び一〇・七。而て三月、七月、八月は之に次ぐ。

(三) 本病者發生の最も少き月は一月で五・〇。次は十二月で、六・〇である。

二、右の各職業別との關係

- (一) 之を職業別に見るときは、車掌、運轉手及職工の三種は、常に相ひ一致したる曲線圖を示す所の一群にして、之に反して、信號人、雜役夫及工夫の三種は、其の相互間にも、又前記の三種とも一致すること少き別様の曲線を示す一群である。就中、車掌は最も平均型に近く、即、全般の代表者と見做し得べく、工夫は低率無定季型であり、信號人は極端なる不規則型である。
- (二) 四季を通じて、神経系統患者の比較的多く出るのは運轉手にして其の最高率は四月に於ける萬分の一四・三。其の次が五月及び六月で共に一三・六。最低率は一月の六・〇及び十二月の六・三。
- (三) 車掌の罹病率の最高は五月で、萬分の一三・二。次は六月で一二・七。其の最低は一月と十二月とで夫れ〱五・六と五・七である。
- (四) 職工に於ける最高率も右同様に六月で、萬分の一三・四であるがその發病情態が、この月に急劇なる増加を示してゐるのが其の特徴である

(五) 工夫の罹病型式は、一般に低率なる上に、季節とは格別の關係を示さない。いつも萬分の四乃至五の前後を往返してゐて、強ひて云へば多少の秋季型を呈してゐる。

(六) 雜役夫に於ても、其の罹病率は概して低く、かの共通性の一群に於ける如き、春夏季型でなくて、秋季型であり、冬期には本病者は少く、又春暖には却つて恒常性を示して、前者の如き急増急減の傾向はない。

(七) 信號人は、上文に見えたる通り、之を合計するときは、その罹病率は、第三位といふ高率を保つこととなるが、實は不定季の不規則型曲線で、一斑を以て之を推すことは出來ないのである。

(八) 右七項を約するに、

- (1) 車掌、運轉手、職工の一群は、共通性曲線を示し、他の一群はさうでない。
- (2) 共通性一群の罹病情態は明白なる夏季型にして、精しくいへば、春の四月より増加を始め、秋の十月より低減を示す。
- (3) 不共通性の一群に於いては、前項の特徴は少くて、却つて多少の秋季型である。
- (4) 冬季に本病者の少きは、孰れの職業に於いても通同の事實である。
- (5) 工夫は本病に對して、最も安全なる情態に居り、信號人の罹病率は不規則である。

三、全罹病従業員との關係

本項につきましては第四表及び第五表を参照せられよ。

- (一) 神経系統患者が、他の疾病と比較して、多く出るのは、二月より十一月に至る十ヶ月間にして、本患者の比較的少きは、一年間に唯十二月と一月との冬季二ヶ月のことである。
- (二) 但、就中三月から六月に至る間に最高に達し、——六月は百分の七・四。三月は七・三。——七・八の両月は五・八で平均(五・九)に接近する。
- (三) 即、本病は一年の大半は百分の六から七の間を往返して、其の曲線の高低に著しき変化はないが、併乍らとにかく明瞭に季節的影響を示してゐる。

四、右の各職業別との關係

- (一) 之を職業別に見るときは、信號人の罹患率が極めて變動甚しく、百分の零(四月)と百分の一・二・五(五月)との間を往復し、而て季節に關して殆何等の特徴を示さざる無定季型である。
- (二) 之に次いで變動の甚しきは雜役夫で、最高率を示すのは四月の一〇・六。十一月の一〇・二。而て最低率は一月の二・七である。これも亦不規則の無定季型である。
- (三) 工夫に於いては、其の最高率を示すのは、三月で百分の七・九、最低率を示すのは十二月で、二・五。而て春寒の候と秋冷の節とに本病が甚多く、五月より九月にかけては、百分の五・五前後を、大なる増減

なくして、往返するに過ぎない。之を見ると、一見、工夫に於ける神経系統疾患は、乗務員等に見る如き夏季型でないやうに思はれる。併乍ら予を以て之を觀るに、工夫に於いては、其の職業上、又は環境上、夏季型を現す他の重大なる疾患がありて、その爲に、本來の曲線が影響されてゐるものと察せられる。この事は總括に及んで論究しやう。

(四) 運轉手に於ける本病者の存在率は、比較的多くして、上半期の春暖、初夏に最も多く、即、最高率は四月で八・四。而て一月と十二月とは最低で夫れ〇・四・二及び四・四である。

(五) 車掌は運轉手に比較すれば、神経系統の患者を出すことは、多少、少い方である。これはその職業的關係に原因するかと思はれる。又、車掌に對する曲線は、こゝに於いても亦平均値に近くして、代表者ど見做し得る。

(六) 以上、五項を通覽するに、各種の疾患中、神経系統の患者を出すことは、運轉手、車掌、職工の一群が共通性にして、夏季型に屬し、工夫は一般に低率、而て信號人と雜役夫とは、その甚しき不規則なる曲線に對して、季節的影響以外に他に、重大なる要因の存するを語るものである。

四、總 結 論

之を總括するに、

第一表

自大正七年
至大正九年 三箇年間従業員に對する神経系病患者比較表

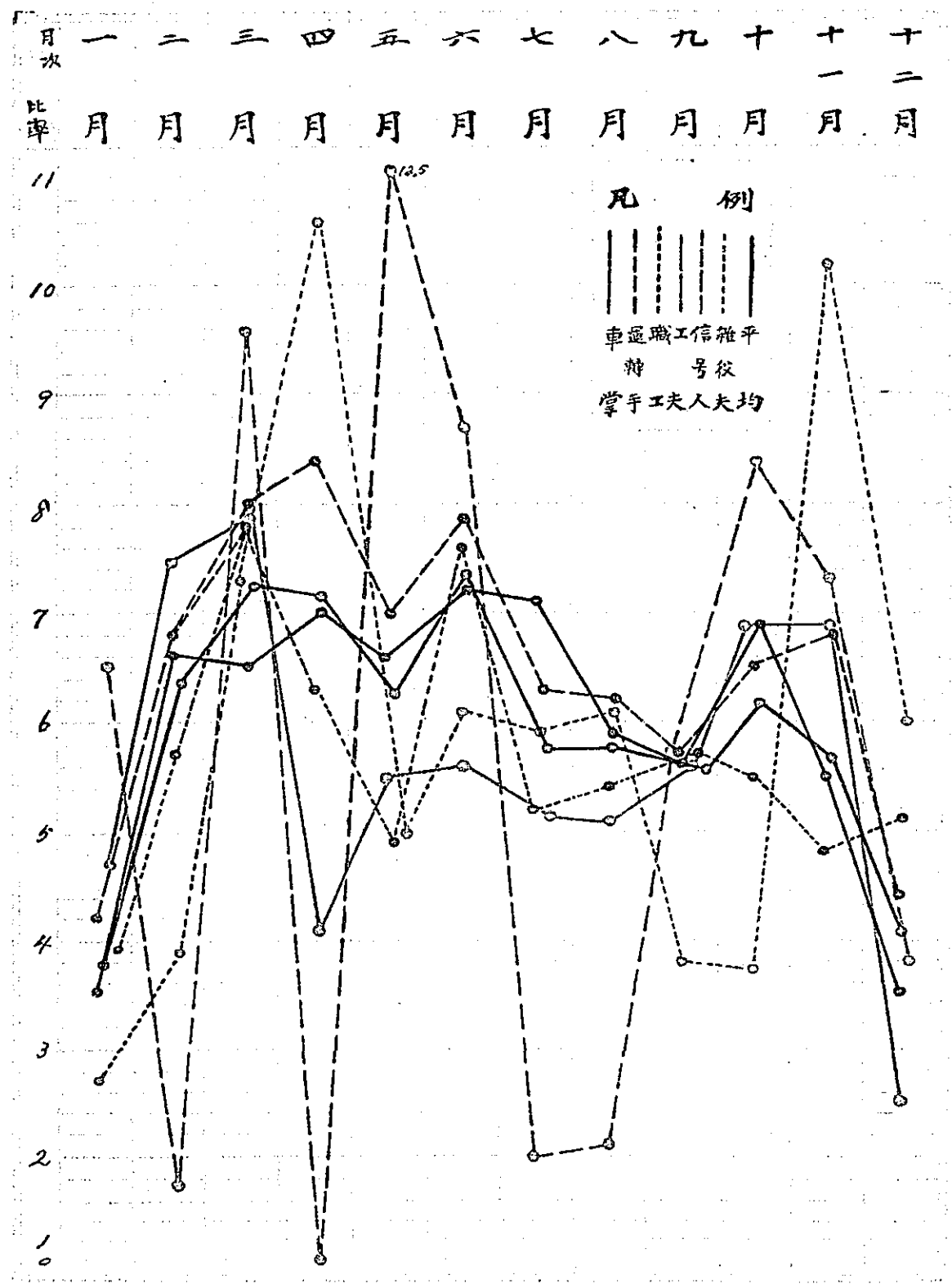
區分	職別	年次			計	平均
		大正七年	大正八年	大正九年		
延 人 員	車 掌	1,007,431	1,147,750	1,419,331	3,574,512	1,191,504
	運 轉 手	728,032	826,790	1,050,322	2,605,144	868,381
	信 號 人	17,095	20,036	16,179	53,313	17,771
	職 工	552,493	737,395	855,281	2,145,169	715,056
	工 夫	249,529	268,281	328,202	846,012	282,004
	雜 役 夫 其 の 他 計	140,487 22,689 2,717,756	146,470 21,987 3,168,712	180,005 147,431 3,996,751	466,962 192,107 9,883,219	155,654 64,036 3,294,406
何 か の 疾 病 に 罹 り し 者 の 員	車 掌	19,816	19,944	21,875	61,635	20,545
	運 轉 手	14,252	14,042	15,282	43,576	14,525
	信 號 人	354	253	244	851	284
	職 工	10,407	11,235	11,886	33,528	11,176
	工 夫	2,204	1,803	2,812	6,819	2,273
	雜 役 夫 其 の 他 計	1,854 209 49,096	1,250 267 48,794	1,574 2,824 56,497	4,678 3,300 151,387	1,559 1,100 51,462
神 經 系 病 患 者 延 人 員	車 掌	1,143	1,421	1,069	3,633	1,211
	運 轉 手	978	991	869	2,838	946
	信 號 人	11	19	20	50	17
	職 工	491	712	695	1,898	633
	工 夫	78	119	185	382	127
	雜 役 夫 其 の 他 計	105 5 2,811	70 4 3,336	95 102 3,035	270 111 9,182	90 37 3,061
從 業 員 者 對 神 經 系 病 比	車 掌	11.3	12.4	7.5		10.2
	運 轉 手	13.4	12.0	8.3		10.9
	信 號 夫	6.4	9.5	12.3		9.4
	職 工	8.9	9.7	8.1		8.8
	工 夫	3.1	4.4	5.6		4.5
	雜 役 夫 其 の 他 計	7.5 2.2 10.3	4.8 1.8 10.5	5.3 6.9 7.6		5.8 5.8 9.3
罹 病 者 對 神 經 系 病 比	車 掌	5.8	7.1	4.9		5.9
	運 轉 手	6.9	7.1	5.7		6.5
	信 號 夫	3.1	7.5	8.2		5.9
	職 工	4.7	6.3	5.8		5.7
	工 夫	3.5	6.6	6.6		5.6
	雜 役 夫 其 の 他 計	5.7 2.4 5.7	5.6 1.5 6.8	6.0 3.6 5.4		5.8 3.4 5.9

- (一) 神経系統の患者に於いては、共通の因子を有する一群(車掌、運轉手及び職工)と、然らざる他の一群とがある。
- (二) 其の共通の因子は、主として一は季節的影響なるべく、又一はその従業情態に依るものと認められる。
- (三) 季節的關係としては、春暖の候より、初秋にかけて、本病患者の出現の甚多きことを注意すべきである。
- (四) 總罹病者中に於ける本病者は、暑熱時よりも春暖の候に甚多きは、これ實に夏期に於いては、他の某々疾患が大に蔓ることの多きを語るものと解せられる。
- (五) 工夫は神経系統の疾患に對しても、比較的安全の情態に居り、信號人は甚しく不定の情態である。而て運轉手は心身ともに緊張過勞に陥り易き傾向を認める。
- (六) 尙詳細は上記各表及び第六表を見られよ。——以上

第四表 大正七年三箇年に於ける全患者の神経系病患者の百分比率表

職別	區分	月別												計
		一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
車掌	全患者	4,410	4,186	4,714	4,530	5,758	5,108	6,022	5,986	5,477	5,021	4,967	5,461	61,635
	百分率	155	274	306	316	382	387	358	354	308	348	272	199	3,633
運手	全患者	2,883	2,852	3,231	3,426	4,085	3,610	4,172	4,297	3,875	3,972	3,571	3,602	43,576
	百分率	120	195	259	287	286	285	261	265	222	259	242	157	2,838
信託	全患者	46	60	73	30	40	49	100	48	88	107	110	80	851
	百分率	2	1	7	3	5	6	2	1	5	9	8	3	50
職工	全患者	1,966	2,063	2,232	2,449	2,954	2,943	3,232	3,505	3,330	3,137	2,846	2,851	33,528
	百分率	77	118	173	154	146	225	168	185	193	175	138	146	1,898
工夫	全患者	30	57	78	63	40	76	52	54	57	55	48	51	57
	百分率	8.0	5.7	7.8	6.3	4.0	7.6	5.2	5.4	5.7	5.5	4.8	5.1	5.7
雑役	全患者	407	467	428	461	598	517	593	692	664	713	669	610	6,819
	百分率	19	35	34	19	33	29	31	35	37	49	46	15	382
給仕	全患者	19	35	34	19	33	29	31	35	37	49	46	15	382
	百分率	4.7	7.5	7.9	4.1	5.5	5.6	5.2	5.1	5.6	6.3	6.9	2.5	5.6
小使	全患者	264	284	331	283	402	428	454	425	449	580	334	435	4,678
	百分率	7	11	24	30	20	26	27	26	17	22	34	26	270
備員	全患者	7	11	7.3	10.6	5.0	6.1	5.9	6.1	3.8	3.7	10.2	6.0	5.8
	百分率	2.7	3.1	7.3	10.6	5.0	6.1	5.9	6.1	3.8	3.7	10.2	6.0	5.8
計	全患者	10,025	9,939	11,095	11,227	13,899	12,726	14,656	15,109	14,535	14,195	13,292	13,688	154,337
	百分率	381	634	804	807	873	945	847	879	811	876	760	565	9,182

第五表 自大正七年 至大正九年 神經系病對全患者百分比率表



昭和十三年三月三日 東京市立第一病院 衛生課 衛生課長 鈴木 敬二

月次	平均	雜工	信工	職工	運車
一月	4.2	3.5	6.5	4.0	3.8
二月	7.5	1.8	4.0	6.8	6.5
三月	7.2	6.5	9.5	7.0	7.5
四月	7.0	4.2	10.5	7.2	8.5
五月	6.5	5.0	11.0	6.8	7.0
六月	7.2	5.5	8.5	7.5	7.8
七月	6.2	2.0	7.0	6.5	7.2
八月	5.8	2.2	6.0	5.8	6.2
九月	5.5	5.5	5.5	5.5	5.5
十月	6.8	3.8	8.5	6.5	7.0
十一月	5.5	4.5	10.2	5.8	6.8
十二月	3.5	2.5	6.0	4.0	4.5

Table 1: Neurological disease patient statistics for employees in the 1st month (Table 1 of 4). Columns include job name, disease type, and employee counts.

Table 2: Neurological disease patient statistics for employees in the 2nd month (Table 2 of 4). Columns include job name, disease type, and employee counts.

Table 3: Neurological disease patient statistics for employees in the 3rd month (Table 3 of 4). Columns include job name, disease type, and employee counts.

大正八年従業員に對する神経系病患者表

Table with 12 columns for months (一 to 十二月) and 12 rows for job types (車掌, 運手, 信人, 職工, 工夫, 雑夫, 給仕, 小使, 職員). Each cell contains data on employee counts, patient counts, and percentages across various neurological categories.

第八表

大正九年従業員に對する神経系病患者表

Table with 12 columns (Month 1-12) and multiple rows for various job categories (e.g., 車掌, 運手, 信人, 職工, 工夫, 雑夫, 給仕, 職員). Each cell contains data for total employees, total patients, and percentages of patients among total employees for various neurological conditions.

Table with multiple columns and rows, containing statistical data from a survey. The text is very faint and difficult to read, but it appears to be a detailed breakdown of respiratory diseases among employees.

大正七年初より
同九年末に至る 従業員の疾病調査

其の三

(呼吸器部の部)

一、呼吸器系統疾患の種別

鼻腔、喉頭、氣管及び肺臓を以て呼吸器官なる一系統とし、之を左の如く細別して統計的觀察を行ふこととした。

- 1 鼻 加 答 兒
- 2 肥 厚 性 鼻 炎
- 3 其 他 の 鼻 竇 病
- 4 喉 頭 加 答 兒
- 5 氣 管 支 加 答 兒
- 6 喘 息
- 7 格 魯 布 性 肺 炎
- 8 肺 氣 腫
- 9 加 答 兒 性 肺 炎